

① 幾何学文様のある煮炊き用の鉢

縄文時代は、土器の誕生をもって始まります。狩猟や漁労文化の中で、食料であるどんぐりなどのアク抜きや漆工芸品作りといった植物を利用する際に、土器を使用しています。植物を利用する知識や技術の発達は、縄文時代の人々の生活を豊かにしました。

縄文時代前期（約 5000 年前）の曾畑式土器の文様は、朝鮮半島の土器の文様の影響を受けていると考えられており、西九州の沿岸部を中心に、九州全域さらには沖縄に広く分布していました。当時の人々の交流が広域に渡っていたことがうかがえます。

展示資料について



深鉢（曾畑式土器）：表面全体に、朝鮮半島でみられる櫛目文の土器の影響を受けた幾何学的な文様を施す丸底の土器